

one-point advice

目標や夢は大きく掲げましょう。まず、一歩を踏み出すこと。小さい目標を一つずつクリアして夢に向かっていくことが大切です。そして関連する資格を取ったり、コンクールにチャレンジしてみてください。何よりも自分に自信がつかますし、知識や仕事の幅も広がります。

キャリアアップのきっかけは人それぞれ
あの人も、そしてあなたも

人とのふれあいを大切に 夢のある家をつくり続けたい



山口 真珠さん
(暮らしセンスアップサロン主宰)

子育てが一段落した時、新たな人生のスタートを切ろうと考えた。三十六歳で一級建築士を目指し、ハードルを一つ一つクリアしながら、夢を実現させた住空間プランナーの山口真珠さん。「この仕事は私の天職」と語るその瞳は、優しい輝きを放っていた。

専業主婦から インテリアの道へ

一九七三年に学習院大学を卒業後、別の大学の研究室で週に三日お手伝いをしていました。一般企業に就職するつもりはありませんでした。今では考えられないことですが、当時は大学を出て就職する女性は少なく、卒業したらすぐ結婚するのが当たり前くらいに思われていた時代です。

研究室で一年ほど働いた後、電子オルガンの資格を取って講師になりました。私は子どものころから母に「手に職をつけるのは大事よ」と言われていました。ピアノが得意だったこともあり、自分の腕を仕事で生かしたいと思ったのです。二十五歳で結婚し、主婦業に専念。二人の男の子を授かり、それからは子育てに追われる毎日となりました。

インテリアコーディネーターの仕事に就きました。この仕事は、日常生活経験を生かすことができます。しかし、生き残っていくためには何かプラスアルファがなければと考え、二級建築士の資格を取りました。

その後、会社を移り、リフォームプランナーの仕事をするようになりました。インテリアの場合、ソファやカーテンを選んだり、簡単に言うとなってきた空間の装飾です。それに加え、リフォームは床や壁や天井から変えることができます。リフォームを手掛けるようになって、仕事の幅がさらに広がりました。念願だった一級建築士の資格も取り、公私ともに充実した毎日でした。

しかし数年たち、仕事にも慣れてくると、これからどうしようかと独立も視野に入れて将来のことを考え始めました。今のやり方でいいのかと、疑問も抱き始めました。そんなある日、大きなアクシデントに見舞われました。自宅が火事になったのです。

大変な中、人生についていろいろ考えました。その時、自分の家をつくるという長年の夢を思い出しました。そして、私の仕事が多くの人に助けられて成り立っていることも。これからの人生は人間関係が大切。そんな思いが、人と人のネットワークの場となるサロンを自宅につくるという発想につながったのです。そんな私を、友人の一言が後押ししてくれました。「チャンスの女神に後ろ髪はなない」。

団塊世代の 第二の人生を応援

二〇〇二年に独立し、自宅に「暮らしセンスアップサロン」をオープン。新しい家にはパワーが宿るものです。新たな仕事への意欲がわいてきました。まさに「災い転じて福となす」。新築にあたっては自分が施主を経験したので、よりお客様の気持ちかわかる設計者になれたと思いました。

独立して一週間目に、早くも新築の設計依頼がありました。それからは不思議なくらい、夢が次々にかなえられていきました。取材に来られた業界紙の方に「セミナーをやってみよう」と話したら、次の日に依頼の電話がありました。サロンにいらしたインテリア学校の校長に「先生になるのが夢」と後からメールしたら、すぐに了解の返事をいただきました。夢は心の中にしまっておかずに、どんどんアピールした方がいいですね。

現在はリフォームの仕事が中心です。一戸建てでもマンションでも、家は建てたその日から老朽化が始まります。ますます私の仕事が役立てられるのではないかと思っています。これからも夢のある家づくりを末永くやっていけたらと思います。間もなく団塊の世代が定年を迎えます。そういう人たちのセカンドライフを輝かせる家づくりが、今の私のいちばん大きなテーマです。以前は、お客様に満足いただくことだけを考えていました。ただ、ただそうではなく、工

務店も大工さんも、設計している私自身も、みんなが満足できる。それが理想の仕事だと、このごろ強く実感しています。私はリフォームの仕事を始め時「この仕事は天職なのよ」と仲間に言っていました。天職と思いついていました。楽しく前向きに仕事ができただけだと思います。そして、夢中のでワクワクしていたことを思い出します。この仕事は「暮らし」が基本です。生活のすべてが役に立ちます。私は年齢的に遅いスタートでしたが、本当によい仕事に巡り合えたと感じています。

Shinju Yamaguchi

東京都出身。1973年学習院大学文学部卒業。89年町田ひろ子インテリアカデミー卒業後、建築設計会社に勤務し、インテリアコーディネーター、リフォームプランナーの仕事に携わる。2002年に独立し、暮らしセンスアップサロンを主宰。現在、一級建築士、住空間トータルプランナーとして、新築およびリフォームの分野で活躍。セミナーの講師も数多く務める。また、リフォーム関連の本を執筆中。ホームページ <http://home.d01.itscom.net/kurashi/>

資格検定 TOPICS

今、注目の資格・検定試験(4)

■インテリアコーディネーター試験

インテリアコーディネーターとは、住む人にとっての快適な住空間をつくるために家具や住宅設備などを選択し、「空間」「人」「モノ」を調和させるための適切な提案を行うプロフェッショナル。インテリア産業協会が実施する資格試験に合格した人に認定される。幅広い商品知識や新しい生活様式を提案する能力などが求められる。

試験は年1回実施。インテリア商品と販売、計画と技術の基礎知識を問う一次試験。論文とプレゼンテーション(図面の作成など)の二次試験が行われる。受験資格については特に制限はないが、二次試験は一次試験

合格者でなければ受験できない。2005年度の試験では、合格者数3,169人、最終合格率20.7%であった。

■江戸文化歴史検定試験

一昨年の「京都・観光文化検定試験」をきっかけに、知的好奇心を刺激する検定が続々登場しブームともなっている。11月3日には、第1回「江戸文化歴史検定試験」が実施される。「江戸の文化や芸術が、現代の日本人の生活やアイデンティティーを確立したといっても過言ではない。日本人らしさや価値観が急激に失われようとしている今こそ、江戸から学ぶことがたくさんあるのではないか」(主催の江戸文化歴史検定協会)。

試験は3級から1級まであり、1級は第2回より実施される。4択のマークシート方式で全100問。江戸時代の歴史・文化を中心に、様々なジャンルから出題される。書店などで発売中の公式テキスト「初級編」の中から3級は約80%、2級は約50%を出題。正解率70%以上で合格と認定される。